

タオル美術館グループ一広株式会社

企業概要

- 会社名：タオル美術館グループ一広株式会社
- 創業：1974年
- 所在地：今治市八町西4丁目1-6
- 業種：製造業
- 従業員数：216名

事業内容の特徴

タオル・マスク製造卸小売業 一貫体制



経営理念

常に人々の心の豊かさと生活文化の向上に貢献する

ビジョン1：アジア No1のタオル製造卸小売業を確立し、タオルのエクセレントカンパニーを目指す
ビジョン2：環境に配慮したタオルづくりを行い、サステナブルな社会の実現を目指す

タオル美術館グループ一広株式会社の取り組み内容

重点施策

制度面の取組(例：テレワーク、時短勤務、フレックスタイム、副業制度、育児・介護支援など)

- ・時短勤務(小学校3年生まで、一日6時間勤務)
- ・有給の看護休暇、介護休暇

重点施策

環境整備面の取組(職場レイアウト、ICTツール、相談体制、評価制度など)

- ・育児休業取得者の休職時・復帰時の面談や配置転換
- ・社宅・寮の整備(社員用、技能実習生用)
- ・DX化の推進(ソフトの導入など)

その他の取り組み

文化・意識改革の取組(研修、コミュニケーション、ダイバーシティ教育など)

障がい者理解のための研修を実施。勤怠管理を電子化し残業時間を可視化、組織的な業務改善を進めています。

女性・シニア・障がい者・外国人など多様な人材への支援施策

支援機関や通訳と連携し、障がい者・外国人が安心して働けるよう業務理解と生活面を支援しています。

DEI(Diversity, Equity, Inclusion)の具体的施策(公平性や心理的安全性など)

採用や昇進の公平性(外国籍の方の管理職登用実績あり)

時短勤務や有給看護・介護休暇、障がい者や外国人への通訳・研修支援を通じて、安心して働ける職場環境を整えています。



こんなことから
取り組みが
始まりました



Q1 多様な働き方・DEI推進に着手したきっかけは？

女性社員や外国人実習生が多く、同僚として安心して働ける環境を整えたいという経営者の思いから着手しました。

Q2 当時の社内課題や課題意識は？
(例：人材確保・離職率・女性管理職比率など)

女性の育児との両立や障がい者雇用に課題があり、制度整備による定着促進が必要でした。

Q3 どのような社会的／地域的背景を意識して取組を始めたか？

法改正など国の施策動向を踏まえ、対応が求められる社会環境の変化を意識しました。

職場文化をつくる

両立できる

率先して制度を利用し、



管理部経理課

次長 高井 あかねさん

私は育児休業や看護休暇を利用しながら働いてきました。管理職という立場だからこそ、制度を利用する姿を見せることで、後に続く社員が安心して利用できる環境づくりが大切だと感じています。子どもの急な体調不良にも対応できる看護休暇や、育児休業からの復帰時に上司・同僚が支えてくれた経験は、働き続ける上で大きな支えでした。

日頃から業務を共有し、チームで補い合う体制があることで、休暇は特別なものではなく「当たり前の選択」になります。今後も、仕事と家庭の両立が自然にできる職場づくりを後押ししていきたいと思っています。



取り組み時の課題と解決方法

制度整備を進める中で、就業規則改定や従業員への周知が必要となり、制度を「作るだけ」で終わらせず、現場で理解・活用してもらうことが課題でした。

こうして
解決!

- ・経営者の指示で、管理部主体で制度を設計・運用
- ・専門機関の助言を活かし、役員承認のもと段階導入
- ・利用事例を共有し、全社一律に頼らず浸透を促進
- ・人事と上司が連携し、面談等で個別フォロー

成果

定量的
効果

- ・障がい者雇用率 **6.2%**(令和7年6月1日現在)
- ・過去3年間に採用した障がい者の定着率 **100%**
- ・女性の産休・育休取得率・育休復帰率 **100%**

定性的
効果

- ・所定外労働時間の減少によるプライベート充実
- ▶ 従業員満足度UP
- ・有給休暇や特別休暇が取得しやすい環境

社内外の
評価

「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度」
(もにす認定)／2022年度認定
「ひめボス宣言事業所認証」／2024年度認証

認証され
ました!



ひめボス
認証事業所

今後の展望
と
メッセージ

女性や外国人、障がいのある方など多様な人材が安心して働き続けられる環境づくりを進めてきました。時短勤務や看護・介護休暇の整備、DX化による業務の可視化などを通じ、制度を「作る」だけでなく「使われる」仕組みを大切にしています。今後は障がい者の多能工化や正社員登用、女性管理職のさらなる育成を進め、地域企業同士の連携を深めながら、柔軟な働き方を広げていきたいと考えています。